

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（上京中学校）

令和2年度 教育目標

○校訓 人・もの・ときを大切に

○学校教育目標 「自立・貢献・夢づくり」

豊かな心とたくましく生きる力を備え、社会に貢献する夢や希望をもって、未来を切り拓く生徒の育成

令和元年度の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>教育目標について、生徒は1年生91.9%、2年生96%、3年生97.3%、保護者は95.8%が達成できていると回答している。生徒は、学年が上がることに高い数値となっており、教育目標に対する理解度が増し行動化しようとする姿勢が伺える。一方、教職員は、重要度100%、実現度95.8%であり、達成できていないと感じている教職員がいることが課題である。今年度、今まで教育目標にあった「人・もの・ときを大切に」の文言を校訓としたことにより、教職員をはじめ生徒・保護者にも親近感が生まれ、心にとめて具現化できると考える。また、教育目標においても、将来を見据えた成長過程を意識して、学年・学級の目標が検討され取組をすすめられると考える。</p> <p>また、本校教育目標を達成するための礎として、保幼小中の一貫教育における自己肯定感・自己有用感などの自尊感情の育成を柱として、互いに連携しながら教育活動に取り組みたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>本校の教育については、生徒も概ね落ち着いた学校生活を送っており、特に学習面では評価していただいている。</p> <p>一方で、健康診断や体力テスト結果から体格・体力における課題や生活アンケートから食生活の改善が明確になり討議した。</p> <p>次年度に向けても、学校教育推進のため、学校運営協議会とPTAが協力してあいさつ運動、美化活動、体育大会への支援、上京中ふれあいコンサートなどの保幼小中合同行事への支援を引き続き行っていただく。また、教職員の働き方改革を推し進めるために協力的なご意見をいただいている。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年9月7日	学校運営協議会
最終評価	令和3年2月	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の創造と支え合い高め合う集団づくりの推進

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認グラム（予習シート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、育成すべき生徒の資質・能力を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ②年間指導計画に基づき、授業導入時のめあて・見通しの確認や、終盤のまとめと振り返りを徹底させることにより、生徒を主体的な学びに導き（生徒主体の学びを保証し）、学習の定着やその意味の確認を図るとともに、社会とのつながりや学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を展開する。また「目標に準拠した評価」や「指導と評価の一体化」の充実を図ることで、効果的な学習評価を実施する。
- ③校内研究授業（6月・10月実施）や支部授業研修会、研究授業週間における授業交流などを通じて指導力向上にむけて研鑽を積み、生徒が主体的に学ぶ授業を進めていくために、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ④「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化をはかる。授業と連動した課題の提示方法に工夫・改善を行う。
- ⑤定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施する。
- ⑥教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割に教科会の時間を設定する。）
- ⑦支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成し、研修会を通して教職員の共通理解を深め、指導計画を活用して支援が必要な生徒の学力を向上させる。
- ⑧朝読書や図書館教育を充実させ、各教科・領域と連携し、多様な学習形態により、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの分析結果。
- ・全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果。
- ・生徒および保護者アンケートの結果。
- ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
- ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
- ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
- ・予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。
- ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。
- ・家庭学習は行っているか。

中間評価

各種指標結果

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

○学校評価アンケート結果

- ・「授業がわかりやすい」…3学年とも80～90%以上、保護者92.4%，教職員100%
- ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3学年とも80～90%以上、保護者86.1%，教職員100%
- ・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1年75.71%，2年85.5%，3年88.3%，

教職員（場面設定）95.2%

- ・「意見や考えを人前で発表している」…1年62.3%, 2年63.1%, 3年75%, 保護者43.2%,
教職員（力がついた）96.3%, 教職員（場面設定）100%

○全国学力・学習状況調査結果…休校措置のため本年度は実施されなかった。

○学習確認プログラム結果（最新結果、全市平均を100とした指標）

- ・1年生…休校措置のため全市平均は公表されなかった。
- ・2年生…1学期は未実施、2学期は5教科とも平均を上回る。
- ・3年生…5教科とも平均を上回る。

○「朝読書に積極的に取り組んでいる」…教職員（重要度）100%, 教職員（実現度）96.3%

自己評価

分析（成果と課題）

○学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組めていると考える。3学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また、学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。

○今年度はコロナ対策のために十分とは言えないものの、教員側は工夫をしながら話し合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいる。今後は更に問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業について研究・実践する必要がある。

○朝読書にも落ち着いた環境のもと、しっかり取り組めている。今後も読書・新聞を読むことを励行したい。

分析を踏まえた取組の改善

来年度より、新学習指導要領が施行される。資質・能力の育成に向けた指導や、思考力・判断力・表現力を伸ばす指導を視野に入れて授業改善に取り組みたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
- ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
- ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
- ・学習確認プログラムの結果検証・予習シートを仕上げたか。計画通りに学習を進めたか。
- ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校評価結果は学校運営協議会理事・企画推進委員に提示した。しかしながら、今年度、コロナ感染拡大防止のため年度当初に行う予定であった学校運営協議会が9月に延期になり、議案としては委員の初顔合せや活動計画で終わったので、ご意見や支援策について話し合う時間が取れなかった。そのため、後期の結果も含めて年度末に総括することとなった。

（以下、同じ内容のため省略）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者による意見・支援策

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

豊かな心を育てる「関係」を創り出し、自尊有用感や自己肯定感などの「自尊感情」を高め、自他を大切にし、高め合う「態度」を育てる取り組みを推進する。

具体的な取組

- ① 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や他者を認める心と、人と人との絆の大切さを感じさせながら、自らの生活や人生をより良くするために自ら正しい判断ができる力の育成を図る。
- ② 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ③ 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を持たせる中で、他人の良さを見つけようと努め、自分もまた周りから大切にされているという実感を持ち、「自信と誇り」を持って安心して自らの力を発揮できる集団づくり・学級経営を実践する。
- ④ 様々な教育活動を通じて、障がいの特性や障がいのある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。
- ⑤ 授業やワークシートは対話を通して生徒が学び合い「深い学び」につながるよう、また生徒が自らの学びを主体的に把握し、その学びを実践につなげられるよう、単元や題材を構成する。
- ⑥ 「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学年・学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。
- ⑦ 「道徳だより」を月1回発行し、保護者へ情報提供を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。
- ・道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。
- ・自尊感情（自己肯定感と自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。
- ・校内美化活動に積極的に参加し、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。
- ・進んであいさつができるか。
- ・普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。
- ・道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができているか。
- ・「こころのあゆみ」における振り返りの変容。

中間評価

各種指標結果（%の数値は学校評価アンケートにおける「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。

○道徳の授業

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていく」 1年 91.9%， 2年 97.3%， 3年 91.5%
「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 1年 91.3%， 2年 95.1%， 3年 90.6%

- ・保護者…「子どもと『道徳』の授業の話をする」32.4%

○自尊感情について

- ・生徒……「上京中学校は、人を大切にする学校」1年96.5%，2年98.4%，3年96.6%

「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」

1年93.5%，2年97.5%，3年91.9%

- ・保護者…「子どもは、自分の長所を知り、自分の良さを生かそうと努力している」68.9%

「子どもは、自分が大切にされていると感じている」90.7%

「子どもは、人を大切にする言動をしている」89%

- ・教職員…「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」92.6%

「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」100%

「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を生かせる取組をしている」100%

○美化意識

- ・「学校は、掃除など美化活動に努力している学校」…1年93.6%，2年91.1%，3年95.4%

保護者92.6%

- ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」…1年94%，2年91.9%，3年90.8%

- ・日々の清掃に加え環境委員や部活動を中心に校内美化に励んでおり、昨年度より美化意識の向上が見られた。

○あいさつ

- ・「あいさつができる学校・生徒」…1年94.9%，2年100%，3年97.4%，保護者84.8%，

教職員88.9%

- ・「自分はあいさつができる」…1年95%，2年97.6%，3年94.5%

- ・生徒会役員やPTAがあいさつ運動をするなど、あいさつの呼びかけを行っている。

○北総合支援学校との交流を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

○他の教科の回答と比較すると達成率は低い面もあるが、昨年度より道徳の授業の重要性や生活に活かしていくという態度が向上していることが伺える。

○一方、子どもと道徳の授業の話をする回答した保護者が昨年と比較して大幅に減少しており、学校での教育活動を家庭に返す取り組みが必要であることが見受けられる。

○自らは自尊感情の高まりを感じていると評価しているが、保護者の見解と食い違っている。

○自分で環境を整えていくという美化意識の向上が見受けられる。

○あいさつについては、自らの評価は高いが、学校全体での評価が低いので課題である。

分析を踏まえた取組の改善

○引き続き道徳の指導を推進しながら、道徳の重要性や生活に活かそうと考え、議論する姿勢を育む機会を維持する。

○自尊感情に関しては、保護者と生徒の認識にずれがあるので、学校での様子を家庭に伝える場面を意識的に増やし、保護者と一体となって生徒を育成していく。

○美化活動は今後も継続して行い、学習環境を自分たちで整えていくという雰囲気を作りたい。

○あいさつについては、形式的・義務的なあいさつから気持ちの良いあいさつ・相手の心に伝わるあいさつへ変容させたい。あいさつの意義について考え、実践する機会を持つ。

学校 関 係 者 評 価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の道徳への関心を喚起することができたか。 ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営を行い、それらの様子を積極的に保護者に伝えられているか。 ・相手意識を持った挨拶について生徒が考え、実践する場面を与えられているか。
	学校関係者による意見・支援策

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	学校関係者による意見・支援策

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
自らの心身に対する意識を深めるとともに、健康な生活を実践できるよう知識を身につけ、実践を通して健やかな体を育成する。
具体的な取組
① 運動やスポーツに親しむ気運を高め、その楽しさや喜び、達成感・成就感等を味わい、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるよう、体育学習や運動部活動の一層の充実を図る。 ② 体育学習や部活動の実施にあたっては、組織的・計画的な安全管理を徹底するとともに、部活動の運営にあたっては、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動となるよう学校全体で取組を進める。 ③ 早寝、早起き、朝ごはんなどの <u>基本的生活習慣をさらに確立する</u> ために実態調査を行うとともに保護者や家庭への啓発を図る。 ④ <u>薬物乱用防止教育</u> 、性教育、エイズ教育等の実施により、 <u>正しい知識の理解を図り</u> 、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。 ⑤ 学校教育全体を通して <u>防災教育や防災管理を充実させ</u> 、 <u>自ら命を守る主体的態度や安心で安全な社会づくりの意識を高める。</u> ⑦ 感染症の予防に対する正しい知識を身につけ、手洗いやマスクの着用など状況に応じて自ら予防できる能力を身につける。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生活習慣アンケートの実施。(毎日の起床・就寝時間, スマホ所持率, 使用時間, 手洗いなど)
- ・体力テスト結果, 「全国体力・運動能力・運動習慣調査 (2年生対象)」
- ・薬物乱用防止教室, 性教育において正しい知識を身につけ, 自らの心身を大切にしようとしているか。
- ・避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。

中間評価

各種指標結果

○学校評価アンケート (7月中旬実施)

- ・「規則正しい生活を送っている」保護者 65% で昨年より低下している。(昨年 81.5%)

○体力テストの結果

- ・コロナ禍において, 全国体力・運動能力・運動習慣調査の中止。体力テストの測定時期の延長に伴い一部未測定のものがあるため, 測定結果からの考察はできないが, 休校明けの体育の授業の様子から明らかに体力の低下は見られた。

○感染症予防

- ・学校再開と同時に学校生活の中で感染症(コロナ)予防について学級や部活動で指導した。登校時に手洗いを行う。(菌やウイルスを教室に持ち込まない)
- ・教科の授業ではマスクの着用や対面にならないような配慮の上でグループ活動を再開した。
- ・保健体育の授業では密を避け, マスクの着用は自由にしている。猛暑が続いた時は, 熱中症予防のためにもこまめな水分補給を促した。
- ・音楽の授業では合唱練習を行う際はマスクを着用, 音楽室に限らず, 空いている場合は多目的室を使い, 密にならないように配慮した。
- ・保健室の使用について, 場所がそれほど広くないため, 生徒の長時間滞在を避け, いきいき交流ルームを休養場所として併用している。
- ・各行事開催の見直しを行った。(開催時間, 参観者の有無等)
- ・各部活動では体温計を常備し, 部活動前後の手洗いを徹底している。土日の部活動については健康観察表を確認, 部員以外に部活に訪れた保護者等には来校記録として, 記名をお願いしている。
- ・完全下校後, 教職員による消毒作業を行っている。

○薬物乱用防止教室, 性教育, 避難訓練は9月以降に実施予定。

自己評価

分析(成果と課題)

○新学期早々2か月の休校となり, 生活リズムの乱れが生じた。それを戻すことができず学校が再開し, 不調を訴える生徒がいた。

○休校中, 家でできるトレーニング動画をHPで紹介するなど, 体を動かすことを呼び掛けたが, 意識的に運動をしていた生徒とそうでない生徒が二極化した。学校再開後はそれを見込んで体育の授業も緩やかにスタートした。体力テストの実施時期が延長されたので, 生徒の様子を見ながら実施。体力的には回復しつつある。

○コロナの感染拡大予防において学校でも様々な対策を行っているが, 長期にわたるため生徒の中の危機感や予防意識が薄れつつある。登校時の手洗いや健康観察表を忘れる生徒が増えてきた。

○夏休み明け, 8月終わりから体調不良を訴える生徒がいた。残暑が厳しく, それに加えマスク

	<p>の着用、テスト週間などがストレスとなり、生活リズムがようやく戻ったと思ったら、夏休みに入り、学校閉鎖日や部活動の停止などで再び生活リズムが乱れたことが考えられる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 手洗いの徹底（教室に菌やウイルスを持ち込まない）について、夏休み前からその意識が薄れてきた。予防対策の再確認や登校時の教師の呼びかけ、生徒会の取り組みでポスターの作製などの啓発を行う。 秋から冬にかけてコロナウイルス・インフルエンザ・感染性胃腸炎など感染症が流行する時期に入るので、生徒一人一人が身につけた知識を活用して、自ら予防する姿勢を身に付ける。 低下した体力についてはがの予防からも、無理をせず徐々に回復を目指す。 まだ実施していない薬物乱用防止教室、性教育、後期避難訓練は感染予防を徹底して実施予定である。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の体力テストの結果を昨年度のものと比較することができないため、体力の回復をはかり、来年度の体力テストの結果に期待したい。 生活習慣アンケートの実施により、生活リズム、予防意識の確認を行う。（毎日の起床・就寝時間、スマホ所持率、使用時間、手洗いなど） <p>学校関係者による意見・支援策</p>
学校 関 係 者 評 価	

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</td></tr> <tr> <td></td><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> <tr> <td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr> </table>	自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題		分析を踏まえた取組の改善	学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題						
	分析を踏まえた取組の改善						
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策						

(4) 学校独自の取組

重点目標
小中一貫教育<K（烏丸）K（上京）P（プロジェクト）>における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。

具体的な取組

- 小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。
 - ・人を大切にする。
 - ・自分の考えを表現する。
 - ・あいさつをする。
 - ・地域を愛する。
 - ・進んで学ぶ。
- ①小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。
- ②新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。
- ③授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。
- ④小中合同で地域行事に参加し、小中ブロックでの家庭・地域との連携を進める。
- ⑤小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。
- ⑥「目指す子ども像」について、学校評価アンケートの内容項目を再検討し、結果から9年間の子どもたちの学び・成長を分析する。
- ⑦中学校ブロックにある保育所・幼稚園（鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園）との連携を推進する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について、小中で共通のアンケート項目を設定することができたか。
(共通項目：人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。)
- ・小中連絡会や校長会、教頭会、各部会を計画的に実施することができたか。
- ・保育園・幼稚園・小学校と中学校で開催する上京中ふれあいコンサートを行う。
- ・小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行うことができたか。
- ・学校だよりやホームページ等で学校のようすを情報発信することができたか。

中間評価

各種指標結果

- 学校評価アンケート結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

・「地域を愛し地域行事に参加」…1年 64.5% 2年 63.7% 3年 67.3%
教職員 85.2% 保護者 52.6%

- 鳥丸中学校校区とも合同で、また、地域の保育所・幼稚園にも参加してもらい、「KKP」として連携を密に活動を図っている。

- KKPの枠組みの中で、校園長会や教務主任会を複数回実施している。

- 夏季休業中に「KKP」合同研修会は中止した。

- 学校・学級通信の発行やホームページで情報発信を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

- 地域・社会への関心に関する肯定的な回答が低い。特に保護者が低かった。
- KKPの枠組みで校長会や教務主任会を実施することで、見通しの立てにくい今年度の状況の中で、各校園の予定や活動内容を共有しやすく、連携を図ることが容易になった。
- コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行っている小中連携行事も、改善を余儀なくされている。ただ、諸々の行事を完全に中止とするのではなく、何らかの形で行えないかの検討を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の作品展に、中学生の作品を展示させてもらうことが可能となった。 ○挨拶運動を KKP の枠組みで日程を統一して行ってきたが、今年度は検討を要する。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の連携を図る夏季合同研修会は中止とした。その分、校長・教頭・教務主任間での連携を密にし、情報共有を図りながら、今年度に可能な小中連携の形を模索したい。 ○例年後期に行っている小学 6 年生を対象とした「授業体験」「部活動体験」について、当初の計画を変更せざるを得ない。中止とするのではなく、小学 6 年生が少しでも不安を払拭できるような取り組みを模索したい。 ○「授業体験」については、鳥丸中学校とも連携して、今年度は小学生が中学校に来るのではなく、中学校教職員が小学校に赴き体験授業を行う方向で考えている。 ○通信やホームページでの情報発信を活発にすると同時に PTA メール配信への加入率を上げ、特に災害等の情報連絡網を確立し危機管理体制を整えたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について小中で共通のアンケート項目について検証する。小中で結果の共有・検証ができる目標とした。 (人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。) ・KKP の枠組みで、校長・教頭・教務主任間の協議を密にし、今年度この状況で実現可能な小中連携の取り組みを考える。 ・通信やホームページで自校の様子だけでなく KKP の取組も情報発信し、取り組み内容を広く周知する。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

業務の効率化を図るとともに、自分自身のライフワークバランスについて見つめ直す。

具体的な取組

- ①日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。
- ②教職員1人ひとりが、ライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかけ意識づける。
- ③OJTを意識した職場環境をつくる。
- ④会議の時間短縮と行事の精選や準備等の効率化を目指す。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・出退勤システムにおける月ごとのデータをもとに、教職員1人ひとりの意識改革を行うことができたか。
- ・会議の資料は事前配布することができたか。

中間評価

各種指標結果

○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員32人）

- ・4月…0人（平均21h）…昨年度より人数、平均時間ともに減少
- ・5月…0人（平均 8h）…昨年度より人数、平均時間ともに減少
- ・6月…1人（平均47h）…昨年度より人数、平均時間ともに減少
- ・7月…5人（平均59h）…昨年度より人数は減少、平均時間は増加
- ・8月…1人（平均31.5h）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
- ・9月…10人（平均65.5h）…昨年度より人数は減少、平均時間は増加
- ・3か月連続超過勤務者…1人

○職員会議の資料は事前に配布することができた。

○職員会議・研修会の時間短縮ができた。

自己評価

分析（成果と課題）

- 留守番電話機能を設定したことで、教職員が保護者対応の時間帯を配慮するようになった。
- 職員会議の資料を事前配布することで、会議時間の短縮を図ることができた。
- コロナ感染防止の観点から、研修会の案件の精選・時間短縮を行った。
- 「No 残業デー」（水曜日）をはじめとするめ平日の退勤時間について意識が高まった。
- 超過勤務の分析
 - ・4・5・6月…休校のため時間勤務者はほぼなし。
 - ・7・8・9月…8月の1人を除いた傾向としては、学校再開に際して、消毒作業や行事の見直しのため、教職員の仕事量が平均して増えた一方で、慢性化していた超過勤務者の意識に「退勤時間を早めて守る」という意識の変化が見られた。
 - ・各自が自身のライフワークバランスについて考える雰囲気が職場に出てきたので、更に意識を高めることができ引き続き課題である。
 - ・職場内のOJTの意識を高め、業務の効率化を図ることは依然課題である。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革を呼びかける。 ○OJTを浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。 ○今年度より業務として増えた消毒作業については、方法や器具の調達をすることで軽減を図る。 ○校務支援員の活用をすすめる。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの集計を分析・検討する。 ・教職員アンケートで意識調査を行う。 ・会議の資料は事前配布する。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</td></tr> <tr> <td></td><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> </table>	自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題			
	分析を踏まえた取組の改善			
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策			